

## 乳がん患者さんが納得し、自分に合った治療を受けるために

～遺伝子検査の理解を促し、対象となる患者さんが必要な検査を受けられる環境作りが望まれる～

### Key Findings

多遺伝子検査の認知度は低い一方で、患者さんは自分自身の再発率や治療効果を知った上で、自身に合った治療を選択したいという意向が大きいことが示唆されました。

#### 調査概要

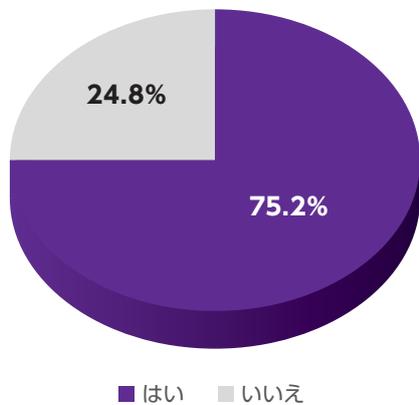
調査期間：2022年11月11日(金)～11月14日(月)

調査手法：インターネット調査

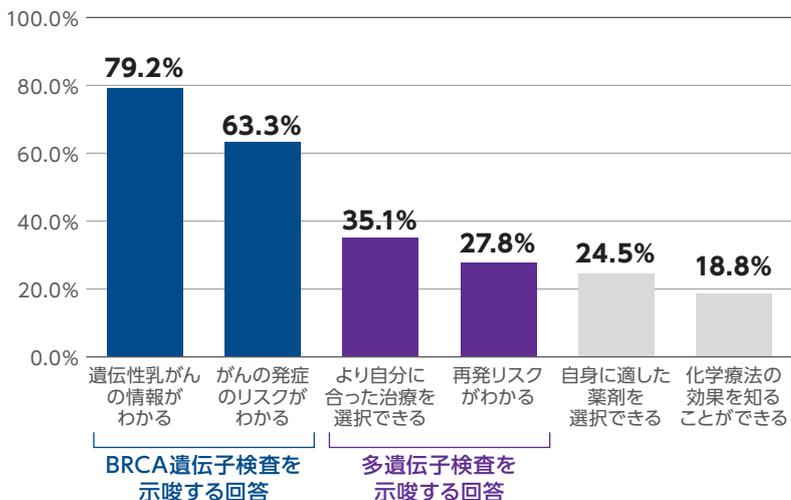
調査対象者：直近5年以内に乳がんの診断を受けた10代から70代の女性の患者さん326名

患者さんへのアンケートの結果、「再発リスクが分かる」、「治療方針の参考になる」多遺伝子検査と、遺伝性乳がん卵巣がん(Hereditary Breast and Ovarian Cancer, HBOC)症候群を調べるための「BRCA遺伝子検査」の違いが明確になっていないことが伺える。

Q 乳がん遺伝子検査について聞いたことがありますか？

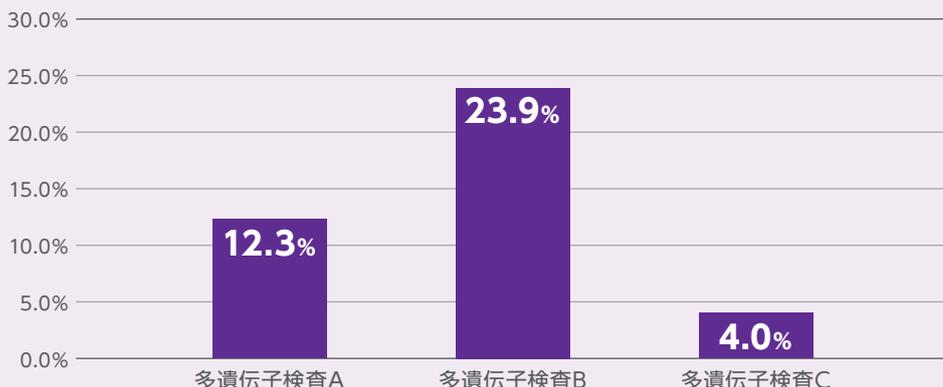


Q 乳がん遺伝子検査について、どのようなイメージがありますか？ (複数回答可) (MA)



### 日本で検査実施可能な多遺伝子検査についての認知度は低い。

日本で検査実施可能な多遺伝子検査は3製品があり、その認知度は4.0%～23.9%に留まった。



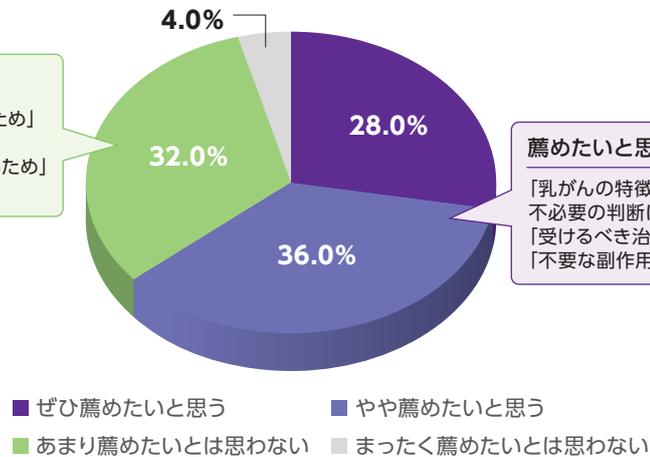
## 実際に多遺伝子検査を受けた患者さんの半数以上が他の患者さんにも検査を薦めたいと回答

「薦めたい」は64.0%。薦めたい理由は、「乳がんの特徴を把握することで、化学療法の必要／不必要の判断に参考とすることができる」が最も高く93.8%、次いで「受けるべき治療への納得感が増すから」が81.3%であり、「不要な副作用を避けられるから」50%を上回りました。

Q 「乳がん遺伝子検査」を受けることについて、他の患者さんにも薦めたいと思いますか。

### 薦めたいと思わない理由

「受けた結果によってはまた同じ選択で迷うため」(55.6%)  
「検査の内容としては薦めたいが、高額すぎるため」(33.3%)



### 薦めたいと思う理由

「乳がんの特徴を把握することで、化学療法の必要／不必要の判断に参考とすることができる」(93.8%)  
「受けるべき治療への納得感が増すから」(81.3%)  
「不要な副作用を避けられるから」(50%)

## 乳がん患者さんは、遺伝子検査についての情報を「医師」ならびに「インターネット」から得ている

乳がんの遺伝子検査の情報入手経路は、「主治医」が最も高く、53.9%。「インターネット」39.3%、「病院で配布する冊子等」19.1%が続く。

Q あなたが、医療に関する情報を入手する方法をお選びください。(複数回答可)

